

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム笑生苑 より愛		
所在地	山口県防府市大字仁井令765-6		
電話番号	0835-21-8555	事業所番号	3590600023
法人名	社会福祉法人ひとつの会		

訪問調査日	平成 19 年 9 月 18 日	評価確定日	平成 20 年 3 月 31 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	9 人	常勤 5 人 非常勤 4 人 (常勤換算 7 人)	

(2) 建物概要

建物構造	木造(在来工法)	造り
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額	24,000 円	敷金	有 / 無	円
保証金	有 / 無	184,200 円	償却の有無	有 / 無	
食費	朝食	300 円	昼食	500 円	
	夕食	500 円	おやつ		円
その他の費用	月額	10,000 円			
	内訳	光熱水費			

(4) 利用者の概要 (9月18日現在)

利用者数	9 名		男性	名	女性	9 名
	要介護 1	1	要介護 4			
	要介護 2	6	要介護 5			
	要介護 3	2	要支援 2			
年齢	平均	84 歳	最低	78 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 ひらた内科呼吸器科医院
	歯科 岸本歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴(優れている点、特徴的な取組)】

(優れている点)

畑づくり、梅干やラッキョウ漬けなどを利用者から教わりながら職員と一緒にこなされたり、クッキングの日(月に1回)を用意して、ケーキや寿司づくりを協働しながら、和やかに過ごせるよう、利用者と喜怒哀楽をともにしておられます。利用者の通院の送迎や付き添いの支援、薬の受け取り、理美容院への送迎や付き添い支援、個人の特別な外出の支援などの自主サービスで、利用者一人ひとりの暮らしを支える取り組みをされています。

(特徴的な取組等)

職員は各自「気づきノート」を持ち、利用者の声や日々のケア上での気づきを記録し、月に1回開催されるケアカンファレンスで意見やアイデアとして出し、家族の参加も得て、利用者にかかわる課題を話し合って介護計画を作成されています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

該当はありません。

(今回の自己評価の取組状況)

職員の意見を聞きながら、管理者がまとめられ、評価することでケアの意識の持ち方の見直しをし、サービスの質の確保に取り組まれています。

(運営推進会議の取組状況)

運営推進会議を3ヶ月に1回開催され、民生委員、自治会長、会場として利用している喫茶店の店主、家族等の参加メンバーから意見や要望などを聞きサービスに活かすように取り組まれています。また、ホームから、理念やホームの取り組みを説明されています。

(家族との連携状況)

家族の訪問時や電話などで利用者の状況を伝えておられます。ケア・カンファレンスへの家族の参加もあり、家族からの意見を介護計画に採り入れたり、家族が気軽に意見が言えるよう取り組まれています。

(地域との連携状況)

自治会に加入され、盆踊りや地域の伝統行事に利用者が参加されたり、清掃作業や、不燃ごみの収集当番、婦人会活動に職員が参加され、近隣の馴染みの関係を築かれています。利用者の友人の訪問や、近くの喫茶店に行くなど交流をされています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	開設時、職員で話し合い、事業所独自の理念をつくりあげている。共生、共同、共助を大切に、地域と密着したホームになるよう努力し、実践している。地域密着型サービスとしての理念には作り変えていない。	・地域密着型サービスとしての理念の作成
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ミーティングや申し送りのときなどに理念について話し合い、共有している。理念の実践に向け、カンファレンス等で一人ひとりにあった取り組みを検討し、日々のケアに活かしている。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入し、地域の祭りや盆踊りに参加している。職員も、清掃、不燃ごみ収集、婦人会活動などに参加し、近隣との馴染みの関係を築いている。利用者の友人の訪問や近くの喫茶店へ行くなど、交流している。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は職員の意見を聞きながら、管理者がまとめている。評価をすることでケアの意識の持ち方の見直しをし、質の確保に取り組んでいる。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議を3ヶ月に1回開催し、民生委員、自治会長、会場として利用している喫茶店の店主、家族などの参加メンバーから、意見、要望等を聞き、サービスに活かすよう取り組んでいる。	・市職員、警察、消防、婦人会など幅広い立場の人の参加の検討
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議に市の担当者の参加はなく、事業所の実情を伝えるににくい。議事録の提出のみ市から求められている。更新の手続き、申請などで市との連携はある。	・市との連携の強化

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族の訪問時や電話などで、利用者の状況を伝えている。法人の便り(3ヶ月毎発行)は送付しているが、ホーム独自ではなく、定期的に一人ひとりにあわせての報告はしていない。	・定期的な個々にあわせた報告
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族の訪問時に声かけしたり、電話連絡などで、気軽に意見が言えるようにしている。苦情受付窓口の外部機関の明示はない。苦情処理の手続きを明確に定めていない。第三者委員は選任して明示している。	・全ての外部機関の明示と周知 ・苦情処理手続きの明確化と周知
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤6名、非常勤4名を確保し、無理のない勤務シフトで利用者の要望に柔軟な対応ができるよう取り組んでいる。職員の急な休みのときは管理者や、職員の勤務交代で対応している。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	法人内の他部署との職員の入れ替わりがあるが、利用者への影響に配慮し、時期や引継ぎの面で努力をしている。馴染みの職員が利用者に声かけするなど、ダメージを防ぐよう支援している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	段階に応じた外部研修の機会の提供や、ミーティング時に研修内容の報告をし、全職員で共有している。管理者の指導で日常的に働きながら学べるよう取り組んでいる。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	県グループホーム連絡会や中部ブロックでの研修会、市内のグループホームでの相互訪問や勉強会を通して、サービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	5日間の体験を経て利用者がホームに馴染んで入居された方が1名ある。やむを得ず、すぐ利用になった場合は、家族に訪問してもらうなど家族と相談しながら工夫している。	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	梅干しやラッキョウ漬け、畑づくりなどは、利用者に教わりながら、職員と一緒に進んでいる。誕生会のケーキや寿司づくり、菓子づくりなど、月1回クッキングの日を用意して、協働しながら和やかに過ごせるよう支えあう関係を築いている。	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	日々のかかわりの中で、特に外出時、利用者の声を聞き取ったり、カンファレンス時に参加した家族から本人についての情報を得るなど、希望や意向の把握に努めている。利用者がコンサートで演奏を聞いた後で楽器を演奏したいという希望があり支援している。	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	月に1回、ケアカンファレンスを開催し、家族の参加も得て、利用者に関わる課題を話し合っている。職員は各自「気づきノート」を持ち、利用者の声や、日々のケア上での気づきを記録し、ケアカンファレンスで意見やアイデアとして出し、介護計画を作成している。	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	介護計画を月1回評価し、6ヶ月ごとや状況に変化がある時には、職員や家族と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	通院の送迎や付き添いの支援、薬の受け取り、理美容院への送迎付き添い支援、個人の特別な外出の支援をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医への受診を希望する利用者を、職員同行で支援している。家族への情報提供も行なっている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度や終末期の利用者に対する対応が、ホームでは困難であることを家族に説明し、理解を得ている。医師と連携を取り、利用者が安心して退居先に移れるよう支援している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	日々のケアで誇りやプライバシーを傷つけるような言葉かけや対応をしないように、ミーティングなどで話し合っている。記録簿等は書棚に鍵をかけ保管し、取り扱いに配慮している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れはあるが、日々、その時々で利用者に合わせて支援をしており、その人らしい暮らしができるよう、一人ひとりのペースを大切にしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は、配食であるが、盛り付けや配膳、下膳、食器洗いなど、利用者と職員と一緒にしている。同じ食事を食べながら、好みを聞いたり、思い出話をするなど、楽しい雰囲気をつくっている。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	日曜日以外は、毎日14時～17時半の間入浴が可能であり、一人ひとりの希望や体調に合わせて入浴が楽しめるよう支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家族からの聞き取りや利用者の日々の会話から、本人の気持ちや楽しみごとを把握し、支援している。コンサート、花の水やり、クッキングの日(ケーキ作り、漬物作り)外食などの楽しみごとや、配膳、食器洗い、掃除など活躍できる場面づくりをしている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、買い物、畑づくり、喫茶店、外食、コンサート、日帰り温泉入浴などへ小グループや全員で出かけたり、個別の対応で利用者本意の外出を支援している。	
(4)安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束や言葉や薬による拘束について、内容や弊害を認識しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者が一人で外出し、危険なことが何度もあったことから、家族の理解を得て、玄関には日中も鍵をかけている。	・鍵をかけずに安全に過ごせる工夫
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒事故防止のために、日常の歩行訓練や2階への昇降訓練などで予防を実行している。ヒヤリはっと報告書、事故報告書の記録はある。	・日々のヒヤリとした事実の記録と活用
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルがあり、管理者は救急救命法の研修を受講している。急変や事故発生時に備えた応急手当などの対応訓練は、定期的には行なわれていない。	・全職員の救急救命法の研修の実施 ・定期的な訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災訓練は、施設独自で月1回実施している。避難場所の確認をし、利用者と一緒に避難経路を散歩している。地域から協力を得るための働きかけはしていない。	・地域から協力を得るための働きかけ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報(目的、副作用、用法、用量)を全職員が把握して、服用の都度確認し、手渡しで服薬を見届けている。状態変化が見られるときには、申し送りノートで共有し、医師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、一人ひとりにあった口腔ケアの支援をしている。歯ブラシや義歯などの清掃、消毒、保管についても支援している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分量を把握し、利用者の状態に応じた支援をしている。法人からの配食であり、栄養バランス、カロリーも把握している。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルがあり、法人全体や、ホーム独自の研修で学習し、予防を実行している。ホーム内の清掃、消毒、食前後の手洗いと消毒、外出、排泄後の手洗い、消毒を徹底している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	南向きの縁側からは庭の木々や通る人などが見られ、利用者が好んで過ごしている。食堂の椅子は利用者の状態に合わせた座り心地の良いものを用意している。住宅地にあり、生活音や灯りなど五感に働きかける刺激があり、居心地良く過ごせるよう支援している。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者が使い慣れたタンス、ラジオ、時計、テレビなどが持ち込まれ、人形や利用者の作品も飾っており、本人が居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム笑生苑 より愛
所在地	山口県防府市大字仁井令765 - 6
電話番号	0835-21-8555
開設年月日	平成 18 年 9 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (8 月 現在)

ユニットの名称	グループホーム笑生苑 より愛
ユニットの定員	9 名

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	地域の方がボランティアで音楽活動や手芸活動を月3回行ってくれる。	校区の小学校と福祉活動の一環として計画し、児童の来苑などをして欲しい
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	自分の出来ることは自分で、出来ないことは誰もが手を貸してあげる。	
3	<p>○運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>	介護スタッフの質の向上と、入居者のQOLを目指すことを明確に示したい	運営理念一つひとつに於いても明確に示したい
4	<p>○運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>	取り組んでいる	
5	<p>○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	開苑前に、自治会の方にホーム見学と施設の概要など話しをしました。 家族には、契約時に話をしている	
2. 地域との支えあい			
6	<p>○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>	挨拶は出来ている	施設内への誘いはしていないので、気軽に訪問してもらえるようにしたい。
7	<p>○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	自治会主催のお祭りに参加、一斉清掃参加、不燃ごみ収集当番、婦人会活動(集会・掃除)参加など行っている	
8	<p>○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	認知症ケアのキャラバン隊活動への協力	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		今年度、評価を受け、職員が意識統一を図り、取り組んで生きたい
10	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	自治会役員の方からの意見で、出来ることは取り組んでいる	
11	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		運営推進会議に市町の担当者が参加しなくなったので、1年に1度は参加して欲しい
12	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	活用している方が1名、他に必要ではないかと思う方の利用への援助を行っている	
13	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止へのはたらきかけ、職員の共通理解がされていない。	市町村の関係職員による研修会を行いたい。また、関係機関の研修会への参加をしたい。
4. 理念を実践するための体制			
14	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	行っている	
15	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置、来苑時に職員からの声掛けや、家族のカンファレンス参加時に意見をもらっている。	
16	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	小遣い帳の確認は来苑時に行い、生活状況は来苑時に口頭で話す。”苑だより”に写真を載せ、暮らしぶりを報告している	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>○情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p>	行っている	
18	<p>○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p>	入所契約時に説明を行い、定めている	
19	<p>○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	1年に2回職員と面談を行い、企画できる事については、実施している	管理者と職員の思いだけでは、実行出来ていない事もある。
20	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	入居者の介護の重度化に伴い、日中については、パート職員を増やす等して調整したが、夜勤帯については2ユニット1名の勤務者で行っている。	今後、重度の要介護者が多くなれば、夜勤帯も職員数を検討したい
21	<p>○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	極力行っている	
5. 人材の育成と支援			
22	<p>○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	行っている	研修会参加の条件が有り、参加できない人もいるので、実務経験に合わせた段階の研修会参加を勧める
23	<p>○職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p>	行っている	
24	<p>○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	行っている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	一ヶ月2日の希望休を取る事、職員同士の交流会や1年に1度の職員研修旅行実施		
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	DO-CAPシートへ記入後面談を行い、個人の思いや意見などを話し、共通理解を図っている		
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	自己評価を行い、面談をし、努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	努力している		
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	努力している		
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	在宅生活が可能か、入所介護が適切化見極め、他機関の施設紹介も行っている。		
31	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	体験してもらった事が1度あります。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	築けている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の環境に合わせた協力と支援を行えるよう努めている		
34	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	支援している		
35	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	自宅に居た時の知人が来訪している		
36	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ホームの理念でもあり、職員は常にパイプ役となるよう努めている		
37	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	電話でコンタクトを図り、来訪を促している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
38	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族参加のカンファレンス時に本人のプロセスから意図的にニーズを引き出し、対応する。家族の意向も参考にする。		
39	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	努めている		
40	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	朝のバイタルから一人ひとりの生活状況を観察し、無理のない過ごし方をする		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41	○ チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	モニタリングをしながら行っている	
42	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況が変わり、必要にあわせて、カンファレンスは行っている	
43	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	行っている	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	特に、医療面で訪問看護ステーションとの連携をしている	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。		ボランティアについては協力(協働)し合っています。教育機関についてはこれから行っていきたい
46	○ 事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)		地域に住む高齢者の心配ごと相談など地域の方に開放的に行っていきたい
47	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	インフォーマルケアの部分は、家族との外出、外食を行う	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		包括支援センターとの協働が出来ていない。活用の仕方が解らない
49	<p>○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p>○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p>○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
54	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		協力医院の医師への相談、連携は行いやすが、他の医院へ通院している入居者の主治医との相談がし難い
55	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
56	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	気を付けた対応を行っている	一部職員に言葉掛けに注意が必要(時々命令口調)
57	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	支援している	
58	○ “できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	支援している	
59	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ほぼ行っている	以前に職員の都合で対応していた事が数回あった。今は行っていない
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	努めている	
61	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事作りは行っていないが、準備、片付けはいつも入居者の誰かが職員と一緒にしている	
62	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	職員と一緒に必要に応じて買物に出かけている	
63	○ 気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	支援している	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
64	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ほぼ行っている		行事等の都合で援助者の都合に合わせた時間帯になることが1年に何度かある
65	○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	支援している		共有スペースにベットなど設置したい
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	支援している		ボランティアさんによる手芸は行っている。9月より学習療法を取り組む。(職員が研修終了後)
67	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	支援している		スーパーでの買物時は一旦本人に財布を渡し、支払を行ってもらっているが、小遣い管理は職員が行っている。
68	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	支援している		近くのスーパーへの買物と温泉や外食は行っているが、宿泊する旅行をしてみたい
69	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	支援している		季節的に、体調や安全面に特別に配慮が必要な時期の工夫をしたい
70	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。			1年間では殆ど無かったがこれからは、本人の希望を聞いて行いたい
71	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	宿泊が1年で2~3名の家族の方がいました。宿泊の為の寝具や食事も準備しています。		
72	○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	対応している。現在も数名の家族が行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	夏はグループホーム3ユニット合同の納涼祭・秋は施設全体の福祉祭り・春の花見は家族参加で行っている。	
(4)安心と安全を支える支援			
74	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	一部、取り組めていない	屋外への徘徊者の危険性が高い為、玄関を施錠している。施錠しなくてよいように工夫したい
75	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	開所当時は日中施錠しないでしたが、2～3回徘徊し、ヒヤリハットがあったので施錠するようにした	
76	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	行っている	階段の昇降には特に注意をしている
77	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	特に、調理器具や工作用具の収納は気を配っている	
78	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒予防には日頃の歩行訓練、昇降訓練、火災訓練も施設独自で1ヶ月1度行うようにした	
79	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		マニュアルは作成しているが、実際に想定しロールプレーが出来ていないので、早期に計画し行う
80	○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告者や”ヒヤリはつと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	職員は当初から行っている。報告は今までにヒヤリハットが2件、事故の場合は市役所高齢障害課へ報告書を提出とし、職員には周知徹底している	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		運営推進会議を通して話し合い、地域の方へ非常事態の協力をお願いをしたい
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		家族に説明をしても、納得・理解してもらえない家族(1名)にどのような対応をすればよいか考える
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	行っている	職員1名の対応時間(夜勤帯)についての対処の仕方を検討したい。マニュアルを作成しているが、実際を考えたい
84	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	徹底し、行っている。	開設当初より、看護職員がいないので介護職員が薬局から出た薬情を通して行っている。また、受診時に医師に確認して服薬の理解をしている
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	行っている	運動量の少ないことの解消を散歩で、台所の手伝い、レクリエーションでの軽体操など行っているが、他に工夫したいと思っている。
86	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後の口腔内ケアの支援と週2回の義歯の消毒(ポリデント)を行っている	
87	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	嗜好の個人差が有り、必要に応じて、個人で購入して飲食し補給している	
88	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	リネンの交換時に施設内清掃、消毒液での拭き掃除を週2回行っている。	入居者は食前の手洗い後の手の消毒と外出、排泄後の手洗い後の消毒を徹底しています。
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	努めている	ホームでの調理を行っていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
90	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	出入り口は何箇所か有る。玄関が開いたらベルが鳴るようになっているが、玄関から徘徊する為玄関を施錠している。	
91	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	皆さん庭が好きで縁で過ごす	
92	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	出来ている	回想法のひとつとして、皆さんの生まれ育った時代の話や懐かしい品物を見て、共有したい
93	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	工夫している	自宅で使った馴染みの物を入居時に持込しています。が、入居してからの御自身の作品も飾っているし、これからも色々な工夫したい
94	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	行っている	朝夕の室温と日中の気温を加味し、それぞれの方の日頃の体調を把握し、配慮出来るよう全職員の意識統一を計りたい
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるよう工夫している。	工夫している	職員が見守りや出来ないことの把握と支援・一人ひとりに合った生活を出来るよう意識統一してケアを行うように取り組みたい
96	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	工夫している	ホームエレベーターの設備は有るが、階段の昇降をし、出来る限り残存能力を活用している
97	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	活動できる広さには狭いが、花を植え鑑賞し楽しんだり、草取りをしながら会話するなど、工夫し活かしている	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ③利用者の1/3くらいの	②利用者の2/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①毎日ある ③たまにある	②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族等と ③家族の1/3くらいと	②家族の2/3くらいと ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ③たまに	②数日に1回程度 ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ③あまり増えていない	②少しずつ増えている ④全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	①ほぼ全ての職員が ③職員の1/3くらいが	②職員の2/3くらいが ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ③家族等の1/3くらいが	②家族等の2/3くらいが ④ほとんどできていない